



研究誌「瑞星」第14号 — 令和6年12月発刊予定 —

ウェルビーイングを育む学校保健活動の推進

— 調和と協調を意識した取組 —



保健室経営

自校の健康課題に活かせる実践が掲載されています。

実践事例「保健室経営」の一部を紹介します。発行をご期待ください。

第14号の実践事例集のキーワードは、「調和」と「協調」です

<小学校>

○センター的機能を活かした開かれた保健室を目指して

不登校支援コーディネーターとして、対策委員会の運営を行っており、教職員と連携し、課題解決に向けて取り組むなど興味深い内容である。健康教育のセンター的役割を担い、開かれた保健室経営を目標に掲げ実践している。

○不登校の未然防止と支援

— 組織体制における養護教諭の取組 —

校内の教職員や外部機関と連携し、不登校傾向児童の未然防止と支援のためにチームで様々な取組を行っている。児童の小さな変化への気づき、早期対応のための取組は大変興味深い。

○養護教諭が行う児童の心の健康を守る支援

— 児童が笑顔になれる保健室 —

心のエネルギーを満たし笑顔になれる場所になるような保健室経営を掲げ、一人一人を大切にしながら取り組んだ実践です。「自分応援レター」「応援してもらおう体験」などを通して心の健康に関する保健指導を実践している。

<中学校>

○自分の健康を考え将来に向けて実践できる生徒の育成

— 組織を生かした幸せな時間作りへの取組 —

「健やかな体を育む指導」プロジェクトチームとして、健康教育に取り組んでいる。基本的な生活習慣の定着、心の健康問題への対応を保健室経営の重点としている。

○子どもの学びを支える保健室を目指して

— 情報共有に着目し連携を生かした保健室経営を考える —
心身の健康課題の早期発見、早期対応のためにグループチャットを利用した情報共有を行い、関係職員と連携して生徒支援を行っている。

○養護教諭の役割を生かした連携・協働

— 相談体制の充実と支援体制の見直しを通じて —
相談体制の充実と支援体制の見直しを行い、課題解決を行った。保健室座談会の実践は、興味深い。

<高等学校>

○“対話でつながり 対話でつなげる”チームとしての取組

— 妊娠した生徒に対する支援を通して —

保健室経営の4つの柱をもとに生徒の相談窓口となり、課題解決のためにチームとして様々な取組を行っている。